

1. 評価結果概要表

作成日 平成22年4月12日

【評価実施概要】

事業所番号	3091500029
法人名	有限会社メディカルサービス有田
事業所名	グループホームゆりのき苑やまち
所在地	和歌山県有田市山地44 (電話) 0737-82-5300

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	平成22年3月20日	評価確定日	平成22年4月12日

【情報提供票より】(22年2月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成19年2月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	12 人	常勤 7人, 非常勤 5人, 常勤換算 3.8人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	1 階建ての	1 階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000円		

(4) 利用者の概要(2月20日現在)

利用者人数	9 名	男性	4 名	女性	5 名
要介護1	0 名	要介護2	4 名		
要介護3	1 名	要介護4	3 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 80 歳	最低 44 歳	最高 93 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	楠本内科医院 ・ 川島歯科
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

閑静な住宅街と、緑に恵まれた環境の中にあり、住民が立ち寄りやすい雰囲気である。ホームでは管理者と職員の歯切れの良い会話が聞かれ、利用者もその会話を何よりも楽しんでいる。管理者は、介護福祉士の教育機関の講師をされる等、教育研修に積極的に取り組んでいる。また、職員に運営やホーム作りに参加させている。職員からは「できるだけ長くこのホームで学び、仕事を続けたい」と聴かれるように、職員からの信頼も厚い。任せて育てる指導を上手く活用されているのが感じられる。理想的ホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	運営推進会議は定期的に2~3ヶ月毎の開催となっているが、地域に関係した農業の繁忙時期等があり、進めるには困難性がある。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価については、管理者は職員に任せ、職員でまとめた。全職員が夫々の項目に回答し、共に学びあえる良い機会となった。今後も積極的に活用したいと意欲的である。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議に施設の報告、交流の進め方等話し合い、スプリンクラー設置等業者も含めて施設の理解が得られ実現している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	面会の機会を利用して、出来るだけ話が聴きだせる雰囲気をつくるため、生活の様子や行事の情報を伝えて意見を伺うようにしている。家族利用者の言葉は、記録に残しOAP方式で迅速に対応へ反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	台風があつて木々が散乱した時があり、施設職員が片付けに出たところ、お礼を言われ共に片付けたことあり、それを機会に住民が出入りするようになり、近所の方は常に協力してくれたり、行事や消防訓練にも見学に来られるくらい交流が良く取れている。又自治会にも加入し溝掃除等地区行事に参加している。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中でその人らしい生活を続けられる様、事業所独自の理念「自由・尊厳・歓び」をフロアに掲げ職員全員で共有している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、定期ミーティングや日常的な話し合い、実践に向けて取り組んでいる。具体的に好きな事を好きな時に出来る楽しい家庭生活に近づける様、外出・買い物墓参り・献立買い物・入浴等希望に添って支援している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区自治会に加入、近くの住民が防災訓練に参加してくれたり、地域の祭り・スポーツ大会行事、草刈ごみ整理に積極的に参加、地域から孤立する事なく交流するよう努めている。有田川の花火が施設からよく見えるので、今年来てくれた住民が、来年も来させてと予約が入っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は評価の意義を充分理解し、改善するところがないかを話し合いなど改善に活かして行けるよう取り組んでいる。評価のまとめについては、管理者が入らず自由に意見を出し合っって見直しの好機と捉まえて自分達でまとめた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は民生委員、区長、家族代表、市役所保健課長が参加して居り、意見として出された地区との交流、現在設置出来たスプリンクラーの事、夏祭り等サービスの向上に生かせる様に活かしているが、2～3ヶ月に1回は無理な状態である。	○	施設全体活躍されている現状を、更に伝えたり協力を得たり、情報を活用できる様気長く構え、回数を定期的に増やす事が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市とは利用者の状況を報告したり、生活保護、空室利用など、助言を頂いたりサービスの向上に取り組んでいる。		
じょうほうこう					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月発行している苑便り「ゆりのき通信」に写真を多くのせ各家庭に個々の健康、生活状態も加え報告している。金銭管理については、面会時に帖を見ていただき確認の印を頂いている。面会の遠のいている方には、電話報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見が出易い様に、面会時声かけし意見の出やすい雰囲気づくりを心がけて居り、出された意見には運営に反映させていくよう日常的に会話で伝えている。		
9	18	○運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は利用者に馴染みの介護が提供できるよう異動や離職を最小限に抑える努力がされており、職員の移動時には、説明をして不安を与えない様配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は介護福祉士教育機関の講師をしており、内外の研修参加、資格取得教育にも目を向け、段階に応じて順次研修を受ける機会を確保し、参加者にはレポート、施設内伝達、研修で興味のある部門を更に自習させ、施設内講習の講師として学ぶトレーニングを進めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在は併設のデイサービス、近くの同法人との交流が多いが、市内の同業者、グループホーム連絡協議会の仲間と施設間交流を希望する方も居り話が出ておりネットワークづくり、勉強会を持つと取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス利用については、体験入所利用が出来ないので、見学を慣れるまで何回もして頂き極力不安を取り除いてホームの雰囲気に徐々に馴染めるように、家族の協力を貰いながら工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者との会話の中に、「この食事は美味しい」とつくる職員と食べる利用者の会話が楽しく交わされている。希望の食材の買入れ、調理の方法、畑仕事など、昔の事等、教わる事が多く共に支えあう関係を持っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族の希望、本人の希望意向をアセスメントシートに把握し、利用者の言葉を、SOAP式に記録して対応を利用者本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントシートを作成し、個別に午前・午後・夜間と記録をSOAP式にしており見直しが都度できるので、カンファレンスにおいても、ケアの方向が分析しやすく対応が何時でも、本人の言葉中心で改善しやすい方法を採用している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は 個別には3ヶ月、月6ヶ月 認定期間に見直しているが、日々の状態観察により必要な家族関係者とも連絡話し合い、現状にあった新たな計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	デイサービスとの連携で、ナース・機能訓練士のアドバイスを貰ったり、利用者の要望によって、多機能を活かした対応をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に一回電話のやり取りで、医師の指示を受けているが、入所時にかかりつけ医を聞き、受診については家族にお願いしたり、職員が同伴したり、協力医療機関とも連携を図り適切な医療をうけられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族の希望もあり、看取りをする方向で構えているが、まだ事例がない。普段ナースや医師の指導を何回も受けており、家族にも状態により話し合いをしている。またナース医師の情報交換も記録に残している。	○	看取りに付いて、良く検討 話し合いは出来ているので、文書化する部分の検討を更に、推し進めていく事を、期待される。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人記録の取り扱いはしておらず、プライバシーを損ねる様な言葉かけは、していない。見学者の中には名前を見て「何処の誰さんですか」など聴かれる事があるが、似た名前の方が有るのですね。と交している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者中心にして、職員側の都合を優先せず、入浴・買い物・散歩・墓参りなど利用者の希望に添って支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立の買い物、希望、調理などその人の希望や好みに合わせており、朝食は三色選択が出来るように準備している。食事中も職員と冗談を交しながら、楽しく支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は休日なく、毎日、19時頃まで職員の介助で、自由に利用者のタイミングに合わせて、楽しめる様支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の好みや、能力、生活歴にあわせて、畑仕事、洗濯物手伝いや施設周りの畑作業に来ている方と話を楽しんだり気晴らしゆとりが出来ている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物はスーパーだけでなく、近所の店も利用して、外出来る様に、ひとり一人の希望に合わせて、また一对一の散歩もできるように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関にブザー無しで、対応をしている。事務室より、見える場所なので声かけで鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署立会いで訓練を実施しており、スプリンクラーの設置もしている。近所の方が常に出入りしてくれているので、日頃より協力が得られるように、頼んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分や食事摂取状況について、職員が把握出来る様に記録しており、一日を通じた一人ひとりの状態が、確認でき利用者の嗜好も献立に取り入れている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は居心地良く過ごせるように明るく暖かい雰囲気、季節の花が所々に飾られ利用者は夫々に、ゆったりした気持の良い時間を過ごせるように、工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の好みや、なじみの物が置かれ居心地良く過ごせる居室となっている。		